

入選

言葉が人に与える力

佐賀県 成穎中学校

1年 熊森 梓

小学生の頃、いじめについて色々学習したり、話し合ったりしてきましたが、心のどこかで、私とは関係のないことだと思っていました。

ところが、それを実際に体験したのは6年生のときでした。朝、学校に行くと、くつ箱の中に、「学校に来んな」「死ね」などといった、心ない言葉がたくさん書かれた紙切れが入っていました。私はそれを見たとき、怒りや、だれが書いたのだろうかという気持ちよりも先に、今まで感じたことのない、心にぽっかり穴があいたような悲しい気持ちになりました。

先生に相談し、こんなことはしないようみんなに注意してもらいましたが、次の日も、同じような紙切れが入っていました。誰が書いたか分からない恐怖、また入っていたらどうしようという不安から、私は学校に行くことができなくなりました。

そんなとき、友達から、1本の動画が、送られてきました。それは、みんなで映っている写真と、「私たちはいつも味方だよ」というメッセージでした。悪意ある言葉が、こんなにも簡単に人の心を傷つけてしまうことにショックを受けていた私は、その一言に救われました。見えない敵におびえる気持ちよりも、私には、目の前にこんなにも思ってくれている味方がいるから大丈夫、という気持ちになりました。

私が学校に行けるようになると、ある友達はいっしょに登下校をしてくれ、ある友達は、私よりも先に登校し、私のくつ箱に紙切れが入っていないか確認してくれていました。もし入っていたら、私の目に届かないように回収しようとしてくれていたと、後から先生が教えてくれました。私はそんな友達に出会えて、本当に良かったです。

私は、このできごとをきっかけに、様々なことを学びました。特に、この世の中には人がいやがることをする人もいるけれど、自分に寄り添ってくれる味方がいてくれた方が心強いということが分かりました。また、「死ね」という言葉にひどく傷つき、友達が私に言ってくれた「味方だよ」という温かい言葉に救われ、悪い意味でも良い意味でも、言葉が与える力を痛感しました。

私は今後、私の周りで、私と同じように傷ついている人がいたら、見て見ぬふりをするのではなく、友達が私にしてくれたように寄り添ってあげたいと思います。それと同時に、言葉の与える力を考えながら、自分の気持ちを伝えていきたいと思います。

最後に、「味方だよ」と言ってくれた友達とは、別々の中学校に進むことになったけれど、ずっと大切にしていきたいです。